



# 営業報告書

第4期（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）

## (1) 主要な事業内容、営業所及び工場、株式の状況、従業員の状況その他の会社の現況

当社は昨年度に経営コンサルティング事業を閉鎖し、今期においては効率の高い翻訳事業に集中したため、増収増益を達成することができました。大型新規顧客が増えたことに加え、依然としてリピート率が非常に高いため安定的の収益を確保しております。

営業所、株式、従業員の状況については、変化はありません。

## (2) その営業年度における営業の経過及び成果

今期の売上高は前年比で約66%増となりました。継続的に営業活動を続けていたことが功を奏し、アフィアブランドの知名度も上がってきたため引き続き問い合わせ件数も上昇傾向にあります。

売上高の増加にも関わらず、営業・マーケティング活動に関する費用は前年度と大差はなく、利益は前年度の水準から約2倍となり、2年連続の黒字決算を迎えております。株式関連の損失を計上しておりますが、これは今後本業に集中するために保有株式を全て売却した結果となります。

財産の状況は引き続き良好であり、キャッシュフローに関する問題は見られません。長期・短期ともに借入はなく、未払金についても現預金で容易にカバーできる範囲となっております。

## (3) 親会社との関係、重要な子会社、その他の重要な企業結合の状況

該当なし。

## (4) 過去3年間以上の営業成績及び財産の状況並びにこれについての説明

今期は当社の第4期となりますが、創業以来売上高は毎年着実に拡大しております。当期におきましては第一および第四四半期に大型の特別受注があり、当初の業績予想を大き



く上回る結果となりました。また、前期と同様財産・キャッシュフローの面も健全であり、前期同様借り入れは行っておりません。

(5) 会社に対処すべき課題

今期におきましても、引き続き注文が殺到し、対応しきれなかったため機会損失が生じておりました。外注先は増えてきたものの、社内における管理職の確保が課題となっています。

なお、来期は当期に生じた特別受注が予想されないため、今期に比べ減収減益となることが予想されます。

(6) 監査役の会社における地位及び担当又は主要な職業

当社の監査役は社外監査役であるため、客観的な判断を下せる立場にあります。代表取締役社長作成による帳簿及び財務諸表、その他付随資料を電子ファイルにて確認しているため計算式の誤り等が容易に確認できる体制を築いています。

また、当社は商法上の小会社であるため監査役の業務は会計関連の監査に限られています。

(7) 上位7名以上の大株主及びその持株数並びに当該大株主への出資の状況

代表取締役社長・岡本武士が当社の全株式を保有しています。発行済株式数は前期と同様、20万株となっております。

(8) 主要な借入先、借入額及び当該借入先が有する会社の株式の数

該当なし。

(8の2) 一定の事由により取得した自己株式につき、その営業年度中に取得したものの種類、数及び取得価額の総額並びにその取得したものが上場株式等でないときにはその売主、その営業年度中に処分又は株式失効の手続をしたものの種類、数及び処分価額の総額並びに決算期において保有するものの種類及び数

該当なし。



(9) 決算期後の生じた会社の状況に関する重要な事実

該当なし。

以上、平成 18 年度（第 4 期）の営業の状況に関して報告致します。

平成 19 年 5 月 28 日

アフィア株式会社  
代表取締役社長

岡本 武士